

令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】新宿区立西新宿中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月18日】

授業作り	重点	学ぶ喜び、わかる喜びを味わわせ、確かな学力を育成するために、問題解決的な学習を取り入れた授業を行う。またタブレット端末およびICT機器を活用し、生徒同士が協働的に考えを共有することを促し、学習意欲の向上及び学習内容の定着を図る。
環境作り		ユニバーサルデザインと人権尊重の視点から、教室内および校内の掲示物の内容、色や掲出位置に配慮し、誰もが集中して授業に取り組むことができるように環境を整える。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・技能」における「漢字の読み書き」がやや向上してきている。 全体的に根拠を示しながら自分の考えや意見をまとめて書くことや400字以上の作文を書くことに苦手意識の高い生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や家庭学習における漢字の反復練習や小テストの実施を行ったことで、全体的に学力の定着に効果があったので、今後も継続する。 授業の中で考えや意見の根拠となるような調べ学習の機会を増やし、それを基に発言する場面や話し合い活動および文章にまとめる機会を多く取り入れて、生徒の思考を促す。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎内容の反復学習 ②小テストの実施 ③話し合い活動の設定 ④デジタルドリルの活用 ⑤インターネットや本、デジタル図書等の資料を活用した調べ学習の充実（探究学習の実施等）
数学	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識の定着がやや向上してきている。 文章を読み、的確に課題を読み取ることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 行った授業内容の確認プリントを解き、正しい導き方や別の解き方を確認することで、全体的な学力の向上に効果があった。また、毎時間、取り組んだ確認プリントの提出を促すことで、提出への意識を高めることができた。解き直しをする際、正しい途中式を書かせ、間違えた部分の原因を分析させた結果、学習に意欲的に取り組めるようになってきている。今後も継続する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本事項の反復学習 ②小テスト・単元テストの実施 ③デジタルドリルの活用 ④振り返りシートの活用
理科	<ul style="list-style-type: none"> 新宿区学力定着度調査において、基礎・応用ともに区平均を上回っており、とくに基礎的な知識の定着は向上している。 実験結果から共通点や規則性を見出し、自分の考えを記述することに課題のある生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通点や規則性等について思考する場面を意識して設け、自らの言葉で考えを表現できる力を育成する。 学校や家庭で基礎学力の定着に向けてデジタルドリル等に繰り返し取り組みさせ、考える力の土台をしっかりと育む。そのうえで、解ける・気付ける・意見を述べられるなどのできることを増やしていき、学ぶ意欲を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本事項の反復学習 ②小テスト・単元テストの実施 ③ワークシートや発問の工夫 ④デジタルドリルの活用
社会	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能に比べ、思考・判断・表現の正答率が低い。 地理的分野に比べて歴史的分野の正答率が大きく下回っている学年がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認テストを実施して基本事項の定着を図るとともに、生徒同士の協働学習を多く取り入れて、生徒の思考を促す。 朝学習の時間にデジタルドリルに取り組みさせる。その際、一人ひとりに個別最適な課題を選択して配信する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本事項の反復学習 ②単元ごとの確認テスト実施 ③活動的な学習の場を設定 ④デジタルドリルの活用
英語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の語彙、文法など基礎的、基本的な知識の定着に課題がある生徒がいる。 既習事項を応用して話したり、書いたりするなど、表現活動において課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルドリルやデジタル音声を中心に活用し、学習成果の発信を繰り返すことで、既習事項の定着と深化を促す。 身近な話題を用いた具体的な場面設定により発話意欲を高め、対話から記述へつなげる指導を通して、論理的な表現力を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本事項の反復学習 ②場面設定を明確にした対話的活動 ③単元ごとの確認テストの実施 ④デジタルドリルの活用 ⑤デジタル音声の活用